令和２・３年度事業

02SDGs-02 （公財）オイスカ

砂漠緑化＆肺炎症状を緩和する漢方薬栽培

中国・内モンゴル自治区阿拉善盟（市）

事業概要

砂漠化防止に効果のあるソウソウ等を植林する。また、新型コロナウィルス感染症（肺炎）に効果のある薬草の種子（複数種）採取用の畑も造成し、青蒿（沙蒿）、麻黄、射干、甘草の栽培を行う。

事業成果

事務所周辺の植林は補植なども行い、ほぼ活着している。遠方地についても７割以上活着している。薬草は青蒿（沙蒿）、麻黄、射干、甘草のうち、射干以外の薬草については、上手く育てることができた。

なお、募金者対象のツアーは、期間中コロナ禍等で日本からの渡航制限があったため実施できなかった。代わりに中国内モンゴル自治区阿拉善盟の一般市民や学生の参加による植林活動を実施した。

事業をよく知る関係者の声

・新たな薬草栽培の活動は、これからのアラシャンにとっても必要である。引き続き栽培研究と普及を進めてもらいたい。（阿拉善左旗科学技術和林業草原局副局長）

・20年も地道な植林活動を行い、牧民の生活向上に努めてきているが、より良い技術があれば、取り入れて欲しい。（阿拉善左旗環境保護研究所所長）

参加者の声

・コロナでなかなか外に出る機会がなかったので、とても楽しい。砂漠化を止める植林をこれからもしていきたい。（参加者・現地高校生女子）

・日本のNGOが遠くから、私たちのアラシャンに来て砂漠化防止活動に協力してくれて、とても感謝している。（参加者・現地30代女性）

・私たちの世代で緑の大地と美しい青空にしたい。（現地小学生女子）

植林用 梭梭（ソウソウ）の苗

砂漠化防止のためのソウソウの植林

植栽後の水管理風景

薬草栽培：麻黄（現地オイスカ事務所周辺）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：42ha
植付本数：10万5,000本

参加者数

中国：127人

樹種

ソウソウ（薬草:青蒿（沙蒿）、麻黄、射干、甘草）

木更津市立波岡小学校PTA

「わくわくの森」復興支援活動

千葉県木更津市

事業概要

令和元年９月の台風により波岡小学校の学習フィールド「わくわくの森」が大きな被害を受けたことから、森に安全に立ち入ることができ、再び学習フィールドとして活用できるよう整備活動を行う。主な活動は、①児童が集まることができるような場を整備するための草刈り、②児童による記念植樹、③進入路の整備、④ボランティアやPTAによる竹林整備・倒木処理等。

事業成果

コロナ禍により、計画した人数・回数を実施することは困難であったが、PTAや児童、地域の方々の協力を得て、再び学習フィールドとして活用できるまでに整備を進めることができた。また、県内の森林ボランティアが研修で同フィールドを作業したことにより整備状況が進展し、これを機にネットワークの広がりに期待をもつことができた。「わくわくの森」での学習再開記念として６年生が中心となって行った植樹は、児童にとって貴重な体験・思い出深い活動となった。

事業をよく知る関係者の声

・６年生が植樹した苗木の成長を確認する機会を設定したい。（40代男性）
・実物の地層は、子どもにとって格好の観察材料となり、生きた教材としての価値がある。大人も多様な生物の生息状況を知り、森・川の繋がりや生態系を実感する良い機会となる。（小学校教員50代男性）

参加者の声

・子どもたちがタケノコ掘りなどの体験学習を楽しみにしているこの森を、地域や保護者で協力して守っていかなければいけないと感じた。（PTA40代男性）
・森で活動する子どもたちのために草刈り作業をはじめとする整備活動を今後とも計画的に行うことができたら良い。（PTA40代女性）

竹林整備

ソメイヨシノの植樹

タケの運搬作業

PR看板設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.1ha
植付本数：10本
下刈面積：2.03ha
除伐面積：0.14ha
支障木伐採：13本
通路・階段整備：25m
PR看板設置：１回

参加者数
県内：175人
計　：175人

樹種
ソメイヨシノ

03SC-10 （特非）フォレストフォーピープル岡山

企業との協働による「高梁美しい森」森林整備事業

岡山県高梁市松山

事業概要

本事業は、高梁市の定める市有林の一部「高梁美しい森」内において、ENEOS㈱、高梁市、（特非）フォレストフォーピープル岡山との協働による、森づくり・森林体験活動を通じたSDGsの実践に取り組むとともに、自然災害の増加や自然環境・生物多様性の保全という問題に対しても、流域思考に基づき複合的に取り組むことで、持続可能な自然共生型地域社会の構築に寄与することが目的である。８期目となる今期は、①下刈り、雑木林整備（間伐を含む）、マツ林整備、憩いの場の整備等）、②自然体験学習を実施し、自然史に親しみ自然を育む心の醸成に通ずる活動を実施。

事業成果

天候不順で中止した回があったが、一定の森林整備を行うことはできた。また、コロナ禍のため、この２年間は活動休止状態であったが、新型コロナに関する新たな知見、生活様式の見直しなどを踏まえて計画することにより、企業が参加する活動が実施できた。この様な状況での事業実施は、今後、様々な状況下での活動にも役立つと考えている。

事業をよく知る関係者の声

・コロナ禍後、人数を絞り込んだこともあり、森林整備作業は、安全管理を含め良く実施できていた。課題としては、団体の人的不足のため、実施体制に加え、財政的な負担も厳しい。また、企業との森づくりであるが、企業側の目指す森づくりのビジョンの共有などが不十分。会員の中には、グリーンウォッシュを懸念する声もあり、企業、会員ともに活動日以外でも日常的に森の活用が意識できる環境づくりが必要。（ENEOS及びFFPO担当者会議）

参加者の声

・久しぶりの野外での作業は、体力的にきつい部分もあるが、気持ち良い汗を流すことができた。可能なら、以前のようにもっと大人数（150名超）で活動したい。（ENEOS未来の森 担当者）

下刈り

雑木林整備

作業前の事前準備

集合写真

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.3ha
間伐面積：0.1ha
ENEOSみらいの森森林整備活動

参加者数

県外：120人
計　：120人

03SC-13 和木町里山研究会

和木町協働の森づくり事業

山口県和木町

事業概要

本事業は、「豊かで美しい森林づくり」と「地球環境の保全」を目的とし、和木町里山研究会が主体となって地元企業のENEOS株式会社麻里布製油所の社員や家族、OB及び和木町、山口県の職員ボランティアと協働で和木町有林約1.3haの整備を平成23年12月から継続している。

事業成果

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定していたENEOSの森事業での下刈り等の作業は、和木町里山研究会の会員のみでの実施となった。栗拾いのみでも体験してもらうことはできないかと計画していたが、それも実現がかなわず、里山研究会会員のみ栗拾いを行った。作業後はENEOSに岸根栗を提供して、今年の山の恵みを感じていただけるようにした。5月に再びENEOS社員に協働で下刈り活動を実施するよう提案したが、実現が難しく、会員のみで栗園の下刈り作業を行った。

事業をよく知る関係者の声

・新型コロナウイルスの感染拡大により実施できなかった事業があったが、ENEOSに栗を提供することなどで、少しでも活動ができるように努めていた。令和5年度の事業では、ENEOSと協働で活動できるように調整できたらなお良い。(50代町職員)

参加者の声

・栗の贈呈が大変ありがたい、令和5年度の事業では、協働で事業ができればうれしい。(40代女性)

下刈り開始

徐々にクリの木が見えてくる

下刈り前

下刈り後

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1.3ha

参加者数
県内：4人
計　：4人

03SDGs-03　（特非）農ある暮らしを広める会

住民参加の山水回復とレジリエンスの向上

神奈川県二宮町

事業概要

気候変動と森、海の環境と森には密接な関係がある。私たちは崩落と倒木だらけの暗い森に入ったとき、根を張れない植生、沢の流れが止まった山の状況を見て、気候変動や海の環境にとって、山林や沢の再生がいかに必要かを知る。ここでは、この再生の技術を地域の若者から保護者世代が身に付け、さらに子どもたちにも伝えていくために、多様な連携を生かした持続可能な仕組みを整える。主な活動は以下のとおり。①地域の山水の涵養と山林･竹林整備、②竹林整備で出たタケを使った子どもたちへの山仕事の紹介とタケのいかだ作り、いかだ乗り体験イベント、③森のようちえん発祥地デンマークに学ぶ「幸せな子ども時代とは?」講演会、④ぼくたちわたしたちの地球会議シンポジウム「海から見た地球」、⑤原木シイタケ栽培研修と実践、⑥東京大学宮下教授と院生によるワークショップ「棚田の生物多様性観察会と学習会」。

事業成果

二宮町の名刹知足寺の山林整備後、森に作ったベンチや遊具で楽しく遊ぶ保育園の園児たちの様子について報告があった。

事業をよく知る関係者の声

・若者たちが積極的に地域住民に説明したことにより、地域、行政からの信頼を得られた。原木シイタケ栽培や有機農業者をつなげてオーガニック給食推進の立役者となる保護者チームとの連携は素晴らしい。（PTA役員）

参加者の声

・ワークショップが素晴らしかった。先生の研究は草刈りの在り方や生物多様性と農との共存、さらに子どもたちの成長環境を考える上で貴重な気づきを与えてくれた。今後のかかわりの中で、さらに多くの学びを得られることを楽しみにしている。（教育委員）

手作りのタケいかだ体験

「幸せな子ども時代とは?」講演会の開催

ぼくたちわたしたちの地球会議シンポジウム

棚田の生物多様性調査

実績とりまとめ

作業内容
樹勢回復：30本
下刈面積：0.8ha
除伐面積：0.5ha
間伐面積：0.1ha
森林資源活用（シイタケ原木、タケのいかだ、タケチップ）

参加者数
県内：280人
県外：　15人
計　：295人

03SDGs-04　松沢みどりを守り隊（地緑団体　松沢区）

“豊かな里山”松沢湿原周辺の保全と回復

新潟県村上市

事業概要

目的は、村上市松沢地区にある灌漑用ため池と集水域にある山林の植物・水棲動物・野鳥について専門家の知見を取り入れた多角的な調査を行い、成果を踏まえた整備を実施することで、ため池・山林・集落が一体となった豊かな農山村を創出させることである。主な活動は以下のとおり。①動植物の有識者とともに調査。②障がい者や健常者が散策し学べる場であることを周知。③前記に関わること。

事業成果

これまでは松沢地区でのイベント時に有識者から松沢湿原についてのお話だけだったが、本事業に取り組むことができたことで、湿原及び周辺の植物調査、野鳥調査を夏・秋・冬・春の１年間にわたり実施できた。水棲動物も冬季以外、調査を行い、取りまとめることができた。

事業をよく知る関係者の声

・用途廃止された農業用ため池周辺を、子どもから高齢者まで散策できる学びの場として整備するには並大抵の苦労ではなかったと思うが、地域住民の理解と協力があり地域づくりの意識が全体に浸透する意義のある活動である。今回、里山や湿原に棲む水棲動物、野鳥、植物の調査や勉強会によって、この地域に多くの動植物が生息・生育し絶滅危惧種もあることを知り、このような取り組みの必要性と事業の継続により、里山の保全と回復に繋がっていくことを確信した。（村上市神林地区関係人口創出事業実行委員会）

参加者の声

・身近な野鳥や植物の活用、水棲動物などの生き物が知れて勉強ってとても楽しい。（新潟市内からの参加者）
・カエルやドジョウを捕まえ、ダイサギやサシバなど名前の知らない鳥も教えてもらい楽しかった。（小学生）

散策道整備

植物調査

水棲動物勉強会

イベントの集合写真

実績とりまとめ

作業内容
調査・勉強会：２回
植物調査：15回
野鳥調査：11回
水棲動物調査：５回
湿原等の整備：５回

参加者数
県内：252人
計　：252人

キャンプ場再生プロジェクト

奈良県天理市

事業概要

持続可能な森づくりを目指す大人たちとともに、環境や資源について学び考え、一人ひとりが主体的に行動できる心を育む。そして、環境再生の視点からの森の整備を学びながら、日頃子どもたちが過ごすキャンプ場の森を復活させる。主な活動は、大地の再生プロジェクトにおいて、草刈り、水脈整備、坂道整備、点穴補修、柵補修などを実施。

事業成果

泥詰まりしにくい環境や水の流れを緩やかにコントロールでき、土砂流出を改善。たくさんの生き物を見かけるようになり、生態系の保全にも寄与していることが確認できた。課題の作業者間の整備知識のばらつきは、整備手法のマニュアルの活用のほか、当日に作業内容の共有時間を設け対策を行った。

事業をよく知る関係者の声

・参加者も森が元気になっていくことを実感することができ、継続的な活動や専門家からの助言の意義を感じている。今後も活動を通じて森の木々に元気を取り戻していってほしい。（奈良県小学校教諭40代男性）
・天理市と協働し、森林環境教育の体験活動のフィールドとして、この森について学習する機会を作り出すことを期待する。（国立曽爾青少年自然の家職員40代男性）

参加者の声

・大地の再生では根本となる部分を見つめ、自然の自らの再生していく力をサポートしながらの森の再生を学ばせてもらっている。（40歳男性）
・水の流れが良くなると、とんぼが飛んできた。（小学２年生）
・森が元気になっていくのがうれしい。（小学５年生）

穴を開け、炭や藁、小枝などを入れる

水脈整備

朽ちた柵の補修

参加者のみなさんと集合写真

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：3.5ha
水脈整備：４回
点穴補修：３回
坂道整備：２回

参加者数
県内：110人
県外：　1人
計　：111人

03SDGs-06　（特非）千葉自然学校

炭焼き体験を通した里山の資源循環を学ぶ場づくり

千葉県南房総市

事業概要

目的は台風被害、ナラ枯れ病などで傷んだ伐採木や土壌改善の資材として木炭を作り、資源循環や自然環境の保全について学ぶ場とするためである。主な活動は以下のとおり。①半兵衛炭焼き塾で窯の作成について学び、ワークショップ型で炭焼き窯を作成。②炭窯の作成と同時進行で炭焼き窯作成地点周辺の枯れてしまった樹木の伐採と、次世代の木が育つ環境づくり。伐採木を木炭にする過程も参加型ワークショップとして実施。③炭焼き窯や伐採地点周辺にて、伐採木を使った森の遊び場づくりを子ども向けのワークショップとして実施。

事業成果

炭焼きを通して、日本の里山について学ぶ学習プログラムを開発した。前年度森の整備活動を行ってくれた方々が、炭焼き窯の作成にも携わってもらえた。地域の小学生向けのプログラムを行うことで、地域の自然環境に愛着を持ってもらえた。炭焼き窯作成地点を中心に伐採を行ったことで、安全に森の中で体験活動できる場所が増えた。土壌改善作業をする際の材料となる炭を、作れるようになった。

事業をよく知る関係者の声

・木々や森から受ける恩恵について身をもって知ることができた。炭窯は、まだまだ改善できる点があるので、今後も皆さんとより良い炭窯にしていきたい。炭窯も１基だけではなく２基、３基と作成に携わっていきたい。また、今後炭窯を作る場合は地元の子どもたちとも一緒に行えれば、次世代の環境意識が高まると感じた。（ボランティア）

参加者の声

・荒れている場所をみんなで整備して、森の中で遊べる秘密基地を作ることができた。伐った木も、捨てるのではなく秘密基地を作る材料にすることで、自然の中には無駄なものがないということが分かった。（小学６年生）

炭窯づくり

炭焼き体験

森の整備活動

森の遊び場づくりに参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：2ha
森の整備活動：９回
炭窯作り：６回
森の遊び場作り：２回
炭焼き：２回

参加者数
県内：257人
県外：　6人
計　：263人

03S-19 鶴二おやじたちの会

ナラ枯れを越える！都会の荒れ森一掃事業

東京都町田市

事業概要

目的は、東京でも被害が出始めたナラ枯れに対し、対症療法だけでなく、被害木の伐採・活用、対策・予防を通し、新たな森林価値の創出に挑む。主な活動は以下のとおり。①ナラ枯れを拡大させないよう、防虫剤の注入や噴射、ビニール敷設などの対策を実施。②被害木を自分たちで処理・活用するため、講習の受講、機材を購入。遊具やターザンロープ場、虫の住処に通じる通路を開拓。③ナラ枯れが始まった大径木の実験的対処（被害の多い一部を伐採するだけで延命ができないか、実験に成功）と実践を通した伐採作業の習得。④コロナ禍で、定期的な活動ができず、参加者が集めにくい中、地域のイベントで「森の生き物作り」活動を実施。

事業成果

本事業の実施により、チェーンソーや草刈機の購入、講習を受け、資格も得ることができた。チェーンソーを使った伐採も、行政に依頼するのではなく、自分たちで実施することができるようになり、活用できるエリアや今後の「遊び活動」の可能性が広がった。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちが遊んでいる森がきれいになって感謝している。（最寄り小学校関係者）
- ナラ枯れの被害で落下した枝が片付けられ、散策がしやすくなった。（公園利用者）
- 子どもたちも参加できる機会をもっと設けてほしい。今後に期待したい。（地区の子ども会関係者）

参加者の声

- しっかりと作業ができる取り組みは良かった。（中学生の息子と作業に参加した50代男性）
- 小さい時から遊んでいる近所の森を、自分が整備できるようになり驚いているが、大学の専門が活かせるのでやりがいを感じている。（近隣在住・東京農大３年生）

薬剤注入時の看板

コナラの伐採

コナラの伐採木活用

「森の生き物作り」活動での子どもたちの作品

実績とりまとめ

作業内容
樹勢回復：１本
下刈面積：0.3ha
森林資源活用：４本
森遊び：13回
作業：15回
アートイベント：１回
大径木伐採：１回

参加者数
県内：175人
県外：　18人
　計　：193人

樹種
コナラ

03S-25 （特非）グラウンドワーク三島

ふるさとの森を取り戻せ！松毛川「千年の森」再生プロジェクト

静岡県三島市、沼津市

事業概要

狩野川の旧河川敷であり全国的にみても貴重な水辺自然環境である「松毛川」（静岡県三島市と沼津市の市境に位置する）において、自然環境の再生･復活のための保全活動を行うことを目的として、地域住民や学生、専門家等との連携のもと、下刈りや竹林伐採・チップ化、植樹などの全20回の実践的な保全活動を実施。

事業成果

本会では、2003年以来、「松毛川千年の森づくり」として、地域協働による森づくり・自然環境再生活動に取り組んできているが、今年度、静岡県による「県営地域用水環境整備事業」による松毛川の川底に堆積したヘドロ等を除去する工事が決定した。県営整備事業の環境アドバイザーとして行政と連携することで、親水景観・自然度・治水機能の大きな改善が今後期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・本事業は、狩野川の原風景が残り、将来にわたって保全していくべき松毛川の環境を、行政依存ではなく住民主導により整備するだけでなく、「生き物たちの楽園・サンクチュアリー･環境教育園」として整備することを目指した事業であり、この貴重な環境を市民の手で守るためのモデルケースとなることを期待する。

参加者の声

・放置竹林の問題点が理解できた。作業後の景観の変化に達成感を感じた。（参加者20代女性）
・協働作業による楽しさを感じた。（参加者10代男性）

放置竹林伐採活動

植林活動

大学生ボランティアと記念写真

伐採したタケのチップ化

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：300本
下刈面積：0.8ha
放置竹林伐採：0.4ha
植樹地整備：0.3ha

参加者数
県内：217人
県外：275人
計　：492人

樹種
エノキ、ムクノキなど

03S-29 （特非）里野山家

三田高平ふるさとの森づくり

兵庫県三田市

事業概要

目的は、三田市酒井奥所の里山の常緑樹除伐と夏緑林の育成及び散策道作りを通して参加する人の交流の場づくりを行うことである。主な活動は以下のとおり。①チェーンソーや刈払い機の構造及び取扱い安全講習会の実施、②密集した森の間伐、除伐作業、③デポを作り、枯れ木や間伐、除伐した残材の整理、④遊歩道や階段づくり、⑤クヌギやナラの間伐材を活用してシイタケ栽培、⑥里山の楽しさを伝えるイベント実施、⑥間伐材の有効利用で薪づくり（循環の暮らし体験）。

事業成果

前年度も実施した三田市のイベント「さんだ町博」に加えて、高平郷づくり協議会と一緒に「三田高平里山の暮らし体験 in 里野山家」を新たに開催し、阪神間の親子連れ50名の参加があった。広報はインスタグラム、FacebookなどのSNSにも注力した。また、チェーンソー並びに刈払い機取扱い安全講習会も今年度は５回開催できた。

事業をよく知る関係者の声

・まち博の三田市全体の報告会において、里野山家の体験企画が非常に好評をいただいた。参加の応募数が多く、キャンセル待ちが出た。現在、里山での体験が街の子育て世代の家族に望まれている体験であることがよく分かった。（三田市まち博担当者）

参加者の声

・子どもたちに里山の暮らし体験をさせることができ、１日親子共々ゆったりとした時間を過ごせて最高でした。（30代男性）
・スタッフがとても親切で、薪割り、鋸などたくさんの体験ができて子どもたちも大満足でした。（40代女性）
・子どものいきいきした姿を見ることができて親としてうれしかった。（30代女性）

チェーンソー取扱い安全講習会

初心者向け里山整備指導

「三田高平里山の暮らし体験」シイタケ菌打ち

里山整備に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：4ha
除伐面積：4ha
間伐面積：5.3ha
森林資源活用：1,500本

参加者数
県内：670人
計　：670人

03S-31 （特非）Peace & Nature（ピースアンドネイチャー）

国境を越えたSDGs　六甲の森・里山づくり

大阪府大阪市、兵庫県神戸市、尼崎市、西宮市、三田市

事業概要

多国籍の児童・学生・若者を対象に、日本人と外国人が一緒になった新たなSDGsプログラムとして、植樹や間伐、間伐材の有効活用等の体験コースを整備し、若者を育みながら地域の里山や森林の復元に取り組む。主な活動は以下のとおり。①植樹、苗木の手入れ、下刈り、②中低木の間伐と薪作り、③竹林の整備、間伐材の有効活用、④環境教育を含む現場でのSDGs教育、⑤SDGsオンライン座談会、⑥チェーンソー、刈払機・薪割り機・電ノコ・ドリル・無煙炭化器等の取扱い研修とその活用。

事業成果

1万本植樹のプロジェクトでは、18カ国の多くの方が参加。コロナの影響で活動が難しい時期はオンライン座談会を開催し、環境やSDGsの啓発を行いながら新たな仲間が増えた。在籍外国人が多い団体の特徴を活かしながら、海外留学生・大学生インターンシップの継続的な受入れを通して、植樹・森林・里山保全の新たな体制ができている。

事業をよく知る関係者の声

・ワークショップなどに若手社員が参加することで、食と環境、SDGs、社会課題等において新たな気づきや学びのきっかけをいただいた。取り組みを更に広げ深めていってほしい。（協賛企業担当者）

・Peace＆Natureは、現場で実践することを大切にし、参加者は技術・知識を得ながら森林・里山保全に取り組める。国際的で多様性に富んだ活動と交流を推進され、様々な可能性の広がりを実感している。（協賛企業担当者）

参加者の声

・木づちで支柱を打ち込む体験で、掛け声に合わせて叩く音が天に広がっていくようで気持ち良かった。（中学生）

・タケを有効活用してお手洗いの壁を作り上げ、達成感を感じた。私たちの世代がPeace & Natureからの学びや気づきを通して成長していかなければならない。（大学生）

植樹

下刈り作業中

竹林整備

里山整備

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.12ha
植付本数：83本
樹勢回復：1.2ha
下刈面積：2.4ha
除伐面積：0.7ha
間伐面積：1.0ha
森林資源活用：154本
SDGs環境教育：23回

参加者数
県内：770人
県外：　84人
計　：854人

樹種
ソメイヨシノ

わくわくの森大作戦

広島県三原市

事業概要

荒廃した森の手入れや人々が集える森林空間にするため、春夏に皮むき間伐のワークショップを開催し、森づくりについて普及啓発活動を行った。また、森と暮らしを繋ぐため、森の間伐材を活用しカッティングボードづくりのワークショップを開催した。秋冬は、明るく健全な森林空間を保つよう、伐採など森林整備を実施した。

事業成果

以前に皮むき間伐ワークショップに参加した方が、自分たちで間伐した木を使った木工がしてみたいということで、カッティングボードづくりのワークショップも開催することができた。森と暮らしが繋がる機会になり大変有意義であった。

事業をよく知る関係者の声

・皮むきワークショップのときは人が集まっても、継続的に伐採などの整備に来られるメンバーが少ない。課題として今後はもう少しメンバーが増えてほしい。(60代男性メンバー)

参加者の声

・森の大切さを知った。これから森のお手入れを私たち若い世代もやっていく必要があると思った。(皮むき間伐ワークショップに参加した高校生)
・森は気持ち良く元気になるため、また参加したい。(50代男性)

伐倒の様子

参加者のみなさん

皮むき

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.8ha
除伐面積：0.7ha
間伐面積：0.8ha
森林資源活用：76本

参加者数
県内：122人
県外：　14人
　計　：136人

みんなのいこいの森つくり

沖縄県南城市

事業概要

ストレス社会の中、繋がりのある社会が必要とされている現状に対して、荒廃した森の整備を通して市民の集う「憩いの森つくり」を目指す。これにより、森を真ん中にした繋がりある社会や人が入り森を整備することによって森と人が共生する社会を作る。主な活動は以下のとおり。①除伐や木道作り等の森林整備、②間伐材で物作り、遊び場作り、③環境学習。

事業成果

整備した山道を中心に人が入ることによって、光が入りやすくなり、親しみやすい心地良い森となった。イベント以外の日にも、森に遊びにくる市民も増え、森と人との関係が近くなった。

事業をよく知る関係者の声

・人が入れるのかが分からないくらいの森だったが、森林整備や山道を作ることで見違えるように森が変り驚いた。（ボランティアスタッフ30代）
・市民とともに整備したことでたくさんの人に愛着をもってもらえたと思う。（ボランティアスタッフ20代）
・森の整備を通じて、森の木々の生育や森の年齢やその生態など、様々な勉強ができたことが良かった。（ボランティアスタッフ40代）

参加者の声

・子どもたちと木道作りから参加して、初めてドライバーを持ったり、森の観察をしたり、森で過ごす楽しみを教えてもらえた。（20代主婦）
・子どもたちが作った遊び場にとても感動。伐木などがこんなふうに生かせること、それで遊んでいる子どもたちもイキイキしていて心地良い時間だった。（30代自営業）
・森の観察会に参加して、森の木々の種類や生え方で様々なことが分かることに驚いた。木々の匂いや植生を知ることもでき、本当に楽しい時間だった。（40代市役所職員）

木道作り

あそび場作り

ツリークライミング

南城市民の森の前で記念写真

実績とりまとめ

作業内容
木道作り：３回
あそび場作り：２回
自然体験：２回

参加者数
県内：241人
計　：241人

03RC-04 信州こどもの森づくり推進協議会

地域における園庭・裏山整備等モデル事業

長野県上田市、須坂市

事業概要

園庭緑化・裏山整備等に詳しい指導者等がおらず、具体的な実践に着手できていない園が、新たに保護者や地域住民等の参加を得た取り組みを開始できるような支援モデルの構築を目的とする。本事業では、上田地域においてこれまで幼児期を対象にした森林環境教育や森林整備活動の実績を有する森林NPO団体（やまぼうし自然学校）と、保育・幼児教育の専門性を有する保育者養成校（上田女子短期大学）が連携した支援体制を構築した上で、①園庭・裏山等の整備計画策定、②園庭緑化・裏山等整備活動、③安全研修等をパッケージで支援するスキームを構築する。

事業成果

森づくり・保育等に詳しい森林NPOが組織的・継続的に指導できる体制を整え、参加型の活動を企画することで、園児や卒園児、園・大学の教職員や学生、保護者・地域住民等の多様な主体が参加した裏山整備活動を開始できた。また、参加者の森林への興味・愛着がより一層育まれ、森と人の共生のための参加・協働の意識が醸成できた。節目の活動には多くのメディアの取材も得られ、広く社会への普及啓発にも寄与するなど、波及効果も生むことができた。

事業をよく知る関係者の声

・人間が自然を活用するのではなく、「自然とともに在る」という視点を持ち、動植物も人間も集まる森をつくるという新たな自然保育の可能性がある。今後、森の専門家から園・大学教職員へ知識や技術を引き継ぐ際に、森に対する見方・考え方も伝えていくことが課題である。（学識者）

参加者の声

・普段子どもたちに親しみがある裏山に親も主体的にかかわることができ、良い経験になった。（保護者）
・同じ目的をもって、整備を行うことで、保護者同士、卒園児と園児、様々な繋がりが生まれ、保護者も主体的に関わってくれたことが大変うれしかった。（教職員）

森づくり活動（散策路づくり）

森づくり活動（除伐）

国際森林デー植樹祭（植樹風景）

国際森林デー植樹祭（集合写真）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.1ha
植付本数：23本
遊歩道作り：160m
など

参加者数
県内：875人
県外：　9人
計　：884人

樹種
オオヤマザクラ、ナナカマド、ヤマアジサイ、ダンコウバイ、ヤマボウシ、エノキ、ナツハゼ

長野県令和元年東日本台風被害の復興支援事業

長野県上田市

事業概要

令和元年台風19号は千曲川流域を中心に長野県内に甚大な被害をもたらした。被災地域の学校、幼稚園、保育園や地域の方々に木のぬくもりを感じてもらうために、校庭、園庭等の植樹、木製製品の贈呈、植樹を行った。

事業成果

木製の椅子を被災した保育園に贈呈したところ、大変好評で他の保育園からも木製に代えたいと要請をいただいている。

事業をよく知る関係者の声

・被災地において、地域の木材を活用したベンチや植樹活動により、水源涵養機能などの森林の持つ多面的な機能について普及啓発が図れた。このような活動を通じて下流部の住民が上流部で植樹活動を行うなど、上下流の交流に繋がることを期待する。（長野県林務部森林づくり推進課　課長補佐）

参加者の声

・木製のベンチの匂いに癒された。
・植樹した木を大切に育てたい。
・数年後に見に来たい。　（園児、児童、教員）

木製積み木の贈呈

サクラ植樹、木製ベンチ贈呈

アジサイを植樹

カラマツを植樹

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：500本
幼稚園、保育園、小中学校記念植樹イベントほか：９回

参加者数
県内：324人
計　：324人

樹種
カラマツ、ヤマボウシ、ハナミズキ、クヌギ、アンズほか

03R-01 （公社）北海道森と緑の会

森・子どもたちの元気づくり・再生プロジェクト

北海道白糠町、標茶町、当別町、札幌市

事業概要

第44回全国育樹祭の開催を契機に、植樹活動や森・木とふれあう体験の機会を提供し、森づくり活動などへの参加促進並びに森づくりの意義等の普及啓発に取り組む。期間中は、コロナ禍があり、人数制限や日程を延期するなどして事業を実施した。主な活動は次のとおり。①子どもたちや地域住民などとともに、ダム上流の「水源の森」や河川周辺、市街地等で植樹し、自然環境の造成や地域の緑化を進める。また、活動前に子どもたちに植樹の役割等について学習する機会を提供する。②木育ひろばを開催、森や木とふれあう体験の機会を提供、一般住民に緑の募金や木育等について普及啓発を図る。

事業成果

コロナ禍を経て、参加者は久しぶりの植樹を貴重な機会として捉え、真摯に植樹活動に取り組んでいた。また、参加者には身近な自然への探求心も芽生えてきた。実施後、活動継続を希望する声も多かった。

事業をよく知る関係者の声

・事前学習で植栽木や森づくりの意義を学んだ後、植樹に取り組み、参加園児は植栽木だけでなく、近隣の自然にも興味を持つようになった。（保育園指導者）
・コロナ禍で参加者数が減ったことから、一人当たりの植栽本数は増えて活動は大変だったが、久しぶりの植樹に活動は充実し、満足する声が多く聞かれた。（植樹指導者）

参加者の声

・自然の中で木を植え、とても気持ちが良く、身近な木や葉に興味がわいた。（参加者）
・これ以上、自然が減ることがないよう、森や木を大切に思うようになった。（参加者）
・大変な作業だったが、また来年もやりたい。（参加者）

植樹（標茶町）

植樹後の集合写真（当別町）

模型で森林の水源涵養機能を説明（札幌市）

木育イベントを実施（札幌市）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.44ha
植付本数：890本

参加者数
道内：279人
計　：279人

樹種
エゾヤマザクラ、ツツジ、イタヤカエデ、ドロノキ、ミズナラ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ、シラカバ、トドマツ、ミズナラ

03R-06 （一財）ハヤチネンダ

馬と歩く瞑想と森林浴を行う新しい森づくり

岩手県遠野市

事業概要

手入れをしていない広葉樹林を森林浴などに適した心地良い森林空間にし、馬と人の通う森をつくる。また、林内の一部にメンバー死後の埋葬エリアも整備し、心の故郷となるような里山景観を作る。主な活動は、①一昨年度伐採したカラマツを土留として活用し、人力で小さな展望台をつくる。②馬と過ごせる森林浴フィールドづくり。③外来種や繁殖力の強い草本を選択的に刈り取ることで在来希少種を保全する。④枯死していた樹木など危険木を除去し、柵を編んで法面の保湿に活用する（バイオネスト）。

事業成果

活動が知られるようになり、参加者は、関東や陸前高田市のNPO法人、武蔵野美術大学のランドスケープ講義を受講している20～30代世代、海外からも受け入れることができた。交流人口の多様化に努めながら、遠野らしい馬と森の里山景観を取り戻すべく、参加者と放牧馬とのトレーニングのプログラムも開始できた。

事業をよく知る関係者の声

・重機も釘一本も使わず、人力と植物の力だけで、森の中から早池峰山を望む小さな展望台ができたことが素晴らしい。（財団法人・評議員）
・ワークショップに大学生の参加を促すには、参加費を安くすることが必須。教育目的の開催なので助成金などの支援をさがしてぜひ継続してほしい。（大学教員）

参加者の声

・展望台での作業は瞑想に近い感覚。土木メディテーションだった。（米カリフォルニア・30代男性）
・山野草が自生していて美しい森だった。馬との対話も含めて、とても深い自然体験ができた。（50代女性）
・里山の景観は人と自然の営みがつくる、ということが作業を通して実感できた。（20代男性）
・森に馬が放牧されていることに感動。（40代女性）

森の植物素材と人の手だけででつくる、展望台

森林医学医と歩く、馬と瞑想の森林浴

森の道づくり＋枯れ笹刈り＋野芝の移植

林床の枯れ笹整理とバイオネストづくり

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.6ha
除伐面積：0.2ha

参加者数
県内：　59人
県外：　81人
計　：140人

03Z-10 京都府立北桑田高等学校

未来へつなぐ「悠久の森」

京都府京都市

事業概要

北桑田高校がある地域には、豊かな自然が残るが人々が生活する地域周辺は針葉樹の人工林となっている。針葉樹のみの森の中に広葉樹を植えることで、自然災害に強く、訪れた人が四季の変化を感じられるような森づくりに取り組む。主に以下の活動について高校生が主体となり、地域の小学生に向けて実施した。①事前学習として小学生への森の授業、②木材の利用について学ぶ木工教室、③悠久の森つくりとしてトチノキの植樹。

事業成果

小学生との交流を実施することで、高校生自身が地域の自然や環境を見つめ直す機会となった。間伐材を活用した木工キーホルダーの作成により、木材の有効利用、トチノキの植樹により自分たちの手で地域の森づくりを行うことで自然を大切に思う気持ちを育ませることができた。

事業をよく知る関係者の声

・地域の高校生から森林や林業について話を聞き、小学生自身も地元地域の自然環境について興味を持って学習することができた。植樹体験ができたことは、子どもたち自身が成長した時に、木の成長を見ることができるので、地域の森への関心がより高まった。（小学校教員）

参加者の声

・高校生のお兄さん、お姉さんに木の伐り方を丁寧に説明していただき、ありがとうございました。みんなと木を倒せてうれしかった。また、何年か後に自分たちが植えたトチノキを見るのが楽しみ。（小学生）

下刈り作業中

先進地研修

木工体験

トチノキを植樹

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.1ha
植付本数：155本
下刈面積：1.6ha
除伐面積：1.6ha
植樹準備、研修：11回
交流会、木工体験：４回

参加者数
県内：265人
計　：265人

樹種
トチノキ

「つなげよう！どんぐりの森2021」プロジェクト

秋田県男鹿市

事業概要

自然の大切さや素晴らしさに気づくきっかけづくりとして、「どんぐりの森づくり」を位置付け、持続可能な自然環境を将来に繋げることをねらいとし、どんぐりの森の育成や「どんぐり観察会」、自然体験活動「どんぐりがっこう」を開催した。

事業成果

どんぐりの植樹や補植を行い６年目にして、自然の営みでどんぐりの芽が出た。「どんぐりがっこう」は、令和２年１月から定期的に開催を継続することができた。継続して参加した子どもたちは、季節ごとの自然の営みや生き物たちを観察し、楽しむことを自主的に行うようになり、持続可能な自然環境を将来に引き継ぐことができている。

事業をよく知る関係者の声

・「どんぐりがっこう」は年間を通して楽しむプログラムで、四季折々の自然も感じながら参加する子どもたちの、新鮮な驚きや反応、挑戦する気持ちや好奇心など成長していく姿が多くあった。充実した自然体験を提供できており、エコツーリズム的な観光プログラムに繋がる可能性もある。参加者はリピーターが多く、新たな参加者を募る工夫が必要と感じた。（どんぐりがっこうスタッフ）

参加者の声

・「どんぐりがっこう」のどんぐりの森には、カシワの木がたくさんある。カシワの葉っぱで柏餅を作った。おいしかった。カシワの葉っぱは枯れるけど冬でも木から落ちないことが分かった。それからフキノトウをたくさん見つけてお好み焼きを作って食べたり、クワの実を教えてもらって初めて食べた。高いところのクワの実は抱っこしてもらって手を伸ばしてたくさん食べられて楽しかった。（小学生）

どんぐり観察会

どんぐりから出た芽

森の恵みを試食

自然体験活動が楽しめる「どんぐりがっこう」

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.53ha
どんぐり観察会：４回
どんぐりがっこう：19回

参加者数

県内：262人
計　：262人

田人林業体験フィールド活動事業

福島県いわき市

事業概要

心豊かな人間形成と社会全体の利益の増進に寄与するため、荒廃した山林を整備して森林とふれあう機会や、安全に楽しめるフィールドを提供するため、次の活動を行った。①侵入竹の除伐と不要木の伐採、②重機による遊歩道の粗造り、③遊歩道の安全杭設置と整備、④植樹場所の地拵え、⑤植樹体験活動。

事業成果

遊歩道の粗造りと伐採・除伐は危険が多いので、慣れた人によって行われたが、仕上げ段階は、一般会員の参加によって行われ、自然とふれあい、植樹体験も行われた。その植樹の大切さを、肌で感じ・学び・喜び、参加者の広がりの可能性を確認した。

事業をよく知る関係者の声

地域の方々には、明るく景観が良くなり、過疎化が進む地域に人が集まり、活性化されると喜ばれている。同時に、森林の整備の大切さを感じている。今後は、活動の全てにおいて、研修が必要だと思われるので、各方面の協力を得て進めていきたい。

参加者の声

・山に来て気持ち良かった。（小学生）
・植樹して地球温暖化の抑制につなげる学びをした。（小学５年生）
・植えた苗木が早く、花がキレイに咲いてくれることを願った。（60代）

重機による遊歩道粗造り

遊歩道に安全杭を設置

フィールドのササの刈取り

ハナモモを植樹

実績とりまとめ

作業内容
遊歩道づくり：９回
伐採・除伐：５回
遊歩道整備：６回
フィールド整備：12回
植樹体験：１回

参加者数
県内：122人
計　：122人

樹種
オオヤマザクラ、ヤマザクラ、ヒガンザクラ、ハナモモ、クヌギほか

未来の子どもと森×SDGs×FSCを学ぶ

東京都檜原村

事業概要

目的は、コロナ禍の緊急事態宣言で山での体験の機会をなくした子どもたちに、森の整備の体験、木や枝を使ったクラフト体験の機会を提供して、SDGsへの理解を深めることである。主な活動は以下のとおり。①森のツアー、森の手入れ（支障木の伐採、作業道の整備等）、森×SDGs×FSCのワークショップ、森の枝で鉛筆作り、②クラフト体験、③落ち葉プール体験。

事業成果

薪炭林は、日常的に手を入れること、作業道も手を入れながら使っていないと荒れてしまうこと、道沿いの藪や灌木も枝を切ることで、安心・安全な道・森ができることを伝えられた。コロナ禍のため事業の催行が危ぶまれたが、期間を延長して、森と木を知る機会を設けることができた。参加者も待ち望んだ自然体験ができたと喜んでいた。里山の手入れを知り、資源の活用の例を親子で体験できたことは今後の継続的な森の手入れに参加する良い契機になる。

事業をよく知る関係者の声

・枝を身近に使えるものにできないかと中学生が考え、切った枝に芯を入れナイフで削ることで、枝の鉛筆が完成。緑の募金を促すために、作った鉛筆をお店で募金箱の側に並べて「FSCの森のえんぴつ時価（お気持ち）」と書いたら、すぐに完売。提供してくれた生徒たち、買ってくださったお客さんに、感謝している。とても有意義な活動になった。（40代教員）

参加者の声

・木材や自然の素材を使って、クラフトができたので、子どもたちは大喜びだった。（40代女性）
・FSCの森の木、森の枝で鉛筆を作り、持ち帰ることができ、FSCの森がとても身近なものになった。（15歳女子）
・森の維持管理のために安全な作業道があることが前提と聞き、今度は道づくりに参加してみたい。（14歳男子）

枝切り

森の鉛筆づくり

完成した森の鉛筆

木工クラフト

実績とりまとめ

作業内容
森林資源活用：0.5ha
ワークショップ：２回
落ち葉掃き･落葉プール：１回
木工クラフト

参加者数
県内：126人
計　：126人

糸島・未来の森づくり事業

福岡県糸島市

事業概要

目的は子どもに森の現状や課題を知り、森への関心、環境保全の意識を高めること、また、課題解決のために自分にできることがあると考えられる自己効力感をもつことで次世代の課題解決への主体性を育むこと。そして、森を再生する活動を行うことで、未来に豊かな森を残し、森を大事にする心と文化を継承する。主な活動は、①森の現状と間伐の必要性の説明、②放置された人工林の皮むき間伐の体験、③皮むき間伐材の伐採ワークショップ、④間伐材を利用した木工のワークショップ。

事業成果

小学校からの送迎バスを手配することで子どもたちが参加できるようになった。昨年までに皮を剥いた木を伐採して、重機やトラックがなくても自力で運び出せること、木の水分量の変化などを体感することができた。新たに木工のワークショップを企画し、森に行くよりも気軽に楽しく森への関心を持ってもらう機会ができた。皮むき間伐ワークショップに参加した子どもが木工ワークショップにも参加することで木材利活用の流れを感じてもらえた。

事業をよく知る関係者の声

・伐倒ワークショップでは前年自分たちで皮むき間伐した森の変化を体感として理解することができた。活用方法を念頭に切り出す材を吟味選別することで子どもたちが考察した意見を交わす良い時間となった。今後は伐り出した後の森や、間伐した先にある森の環境変化などを含めて観察したり、意見を出し合える機会があるのも面白いと思う。（フリースクールスタッフ）

参加者の声

・楽しい。皮がきれいにむけた。皮の下の木がツルツルしててきれいでびっくりした。（小学生）
・森の現状と課題を知れた。木工は楽しくできた。皮むき間伐にも参加してみたい（保護者）

森の現状と課題を説明

皮むき

木材の運び出し

木工ワークショップ

実績とりまとめ

作業内容
間伐面積：0.35ha
木工ワークショップ：２回
伐採ワークショップ：２回

参加者数
県内：150人
県外：　5人
計　：155人

03 子 R-45　(一社) sol

みんなで遊ぶ森作り

熊本県高森町

事業概要

子どもたちが地域との関りを学ぶため、この地の自然をよく知る地域の方々に講師を依頼し、自然体験教室を実施した。主な活動は、火起こし、命の授業（鶏捌き）、森遊び、ブッシュクラフト、登山。また、子どもたちが遊びやすく親しめる森にするため森林整備を実施した。主な活動は、下刈り、スラックラインの設置、子どもたちが木への理解を深められるように果物の苗木を植樹した。

事業成果

コロナ感染対策をしながら自然体験教室を５回実施。小学校高学年以上の子の参加が多く、これまでに比べ難易度の高い活動ができた。その後保護者からは、家庭でも自然体験教室で学んだことを実践しているという声を多くいただいたことが一番の成果である。森の下刈りは２年目になると手伝ってくれる人が増えた。

事業をよく知る関係者の声

・参加者の満足度が高い分リピーターが多いため、新たに参加できる子どもの人数が限られてしまうのがもったいない。阿蘇や高森の雄大な自然、子どもが持つ力を信じ温かく接してくれるスタッフ、障がいのある子もない子も一緒に参加できるこの貴重な自然体験活動をもっといろいろな子にぜひ体験して欲しい。今後開催数を増やしたり広報に力を入れたりできればと思う。（30代事務）

参加者の声

・新しい場に行く時や新しいことをする時、これまでは「できない」と言っていたのが参加後は「やってみる」と言うようになった。（保護者）
・人と接するのも外で体を動かすことも好きになり、自分からチャレンジすることが増えた。（保護者）
・学校では忘れ物をしがちだが、自然体験教室の準備は自分から考えてやっていた。（保護者）

火起こし

子どもたちが木の枝で作った隠れ家

下刈り作業中

スラックラインの設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：23本
下刈面積：0.18ha
子ども自然体験教室：６日

参加者数
県内：133人
計　：133人

樹種
ミカン、ビワ、レモン、サクランボ、ブルーベリー

こどものための森づくりと自然観察会事業

宮崎県都城市

事業概要

目的は、コロナ禍で人との関わりや体験不足の子どもたちのSDGsに繋がる自然への探求心や創造力を育むことである。主な活動は森や自然を活かす活動で、①昆虫写真家新開孝氏による自然観察会とワークショップ（生き物写真の撮影会、昆虫の生態の観察飼育方法）、②森の整地後子どもたちによる植樹会、③看板作成及び設置。

事業成果

専門性が高い講師による自然観察会の写真撮影の指導で、参加した子どもたちが写真を撮影するために、より丁寧で細部にわたる昆虫や植物に対する観察をすることができた。同時に、生物への興味関心を一層深められ、甲虫の幼虫の生態についても学ぶことができた。子どもたちの森づくりのための植樹では、共同作業の達成感があり、40人余の子どもたちがどうやって森ができるのかを知る貴重な体験をすることができた。

事業をよく知る関係者の声

・子どもたちが、森で食や遊び、自然観察会等の体験活動をするための環境が整ってきている。看板が設置されたことで、たくさんの人達に発信することができるようになった。（会員70代女性）

参加者の声

・クリの実がなるのが楽しみ。（小学生男子）
・森づくりに関わって楽しかった。子どもたちも生き生きとしていた。（40代女性）
・将来、植樹した樹木がどうなるのか楽しみ。（20代女性）

専門家による昆虫観察、写真撮影の指導

植樹

設置した看板

森の整地

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.02ha
植付本数：30本
下刈面積：0.5ha
自然観察会：２回
看板設置：１基

参加者数
県内：29人
計　：29人

樹種
ツバキ、アオダモほか

03 子 R-49　里山倶楽部

ひとりひとりが守り、つなげる緑の里山

鹿児島県霧島市

事業概要

霧島市の国分重久地区にある手付かずの林と人の手が入った竹林がある。自然と人の暮らしの境目にあるフィールドで、竹林の資源を利用しながら、１年間の活動を通し、里山を守っていくことについて、子どもたちと一緒に考える。主な活動は、縄文時代や弥生時代の人々に学ぶ持続可能な暮らしについて体験し、タケを使ったおもちゃ、飾り作りなどを実施した。

事業成果

新しい里山倶楽部の登録者が増えたり、定期的に講師の先生をお呼びすることができて、活動に広がりを持たせることができた。定期的に活動を行うことで、たくさんの方に継続して参加していただくことになり四季折々の里山での自然体験を味わっていただけた。

事業をよく知る関係者の声

・里山の環境とその成り立ちに目を向け、その場所ならではの活動を考え、安全性にも配慮しながら実施されている。今後は地域住民との積極的な交流に繋がる要素を増やし、具体的な保全や整備といった、里山を未来へ繋ぐ取り組みへの努力を期待したい。（講師）

・より多くの人たちにこの里山を訪れてもらい、里山にある資源について目を向けることができ、これから、どのようにして資源をさらに有効利用していくのかに意識を向けることができた。（土地の所有者）

参加者の声

・毎回、いろいろな里山でいろいろな活動をすることができて楽しかった。（小学２年生）

・タケでお皿とスプーンが作れてうれしかった。（小学４年生）

弥生時代に学ぶ持続可能な里山暮らしを体験

タケでバンブードーム作り

タケでおもちゃ作り

里山の野草を使って染め物

実績とりまとめ

作業内容

自然体験：９回